

意見書

再意見提出者	札幌テレビ放送株式会社
--------	-------------

意見項目	意見内容
(1) ワイヤレスブロードバンドの今後の展望（2015 年ごろや 2020 年ごろのワイヤレスブロードバンドのサービスイメージ、システムイメージなど）	
(2) ワイヤレスブロードバンドを実現するための課題（周波数の確保、国際標準化・研究開発の推進、利用環境の整備）	
(3) 関連する国内外の動向と課題	
(4) その他、将来のワイヤレスブロードバンドによるサービスやシステムに関する事項	高度情報化社会の一翼を担う「放送」の番組を制作するためには FPU や特定ラジオマイクなどの素材伝送システムが欠かせない要素である、一例を紹介すると弊社では夕方に地域向け情報ローカル番組を制作・放送しており、その中では様々な周波数帯の素材伝送システムを活用している。特に 800MHz 帯 FPU は都市部での見通し外伝送に強く街角での地域密着情報の中継に連日利用し地域の再発見や活性化に貢献している。本社の基地局への接続が容易に出来るため 1 台の中継車で一日に数ヶ所の中継を行う事も多く、多彩な情報を視聴者に提供している。また、事件・事故などの緊急報道中継では、その機動性を有効に生かして効果を上げている。移動体からの伝送にも適しておりマラソン中継ではビルの谷間を疾走するランナーの映像を途切れる事なく伝送し視聴者にリアルタイムで感動をお伝えしている。

意見募集において寄せられた意見に対する意見

No	意見提出者	寄せられた意見に対する意見内容
	「特定ラジオマイクはホワイトスペースに移行する」という意見があります	デジタルテレビと同じ周波数帯での運用については、十分に技術的検証を経た上で慎重に検討すべき。 また、使用可能な周波数をどの様に見出すのか？運用する空中線電力はどこまで許容できるのか？など解決すべき課題も多い。 一方でテレビのデジタル化移行にあたり放送区域以外から伝搬してくる放送電波の潜在電界によりチャンネルプランに苦勞した経緯から、信頼性の高い放送を提供するためには、混信などの妨害を受けないクリアな帯域での運用は必須と考えている。この点からもホワイトスペースにラジオマイクを共用化させるためには、既存放送への影響を綿密に調査する必要がある、今回出されている意見や提案は拙速したものではないかと考える。

	<p>「800MHz 帯 FPU を他の周波数へ移行すべき」という意見があります</p>	<p>テレビ周波数帯でのいわゆるホワイトスペースでの運用を想定すると遠方のテレビ中継局からの多数の放送電波による潜在電界がある中で FPU が移動を伴う運用や隣接放送区域周辺（エリアフリンジ）での運用、また長距離の伝送をする場合などテレビとの混信を避けての運用は極めて困難である。</p> <p>また、他のマイクロ波帯での運用については、移動中継や見通し外での中継には適しておらず、800MHz 帯の伝搬特性と同等に置き換えることは難しい。仮に、これらを実現させるためには、伝播特性を超えるような技術開発が必要であり、相応の時間、コストを要する内容と考える。</p>
	<p>「テレビ放送の周波数帯を更に圧縮」という意見があります</p>	<p>デジタル化における使用周波数の計画策定は、「総務省」、「全国地上デジタル放送推進協議会」、放送事業者が永年に渡る技術検討によって為しえたもので、極めて多くの労力を投入しての成果である。今後、リパックを予定している局所もあり厳しいチャンネル事情にあるため更なる削減は大変困難と言わざるを得ない。</p>